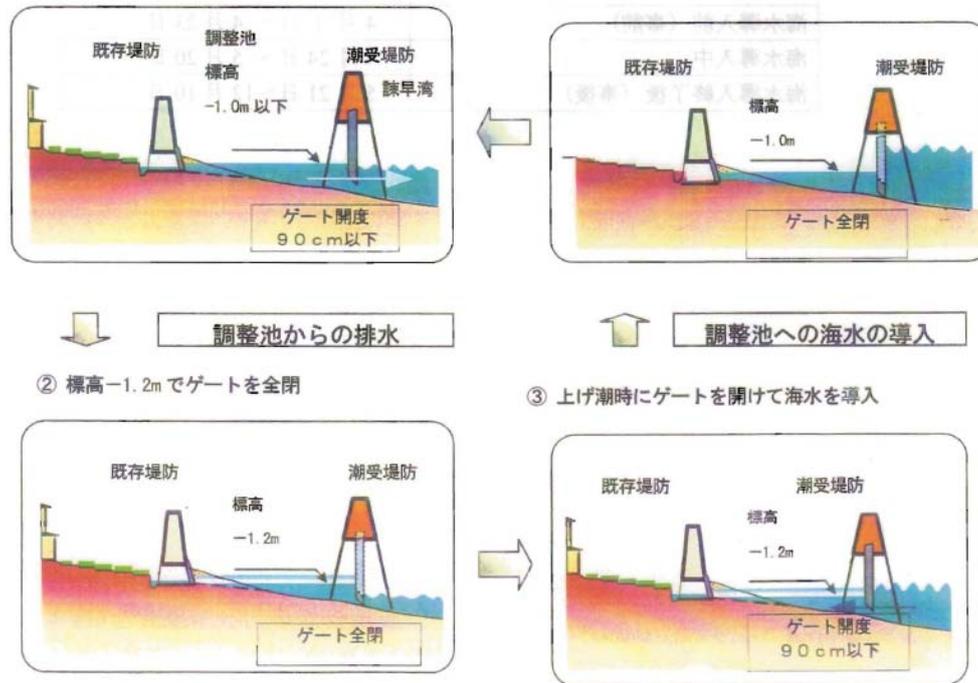


資料編

資料1 短期開門時のゲート開度は「90cm以下」だった

出典：「短期開門調査報告書」P.6



<参考>02年4月28日午前の海水導入量は282万 m^3 、時間55分間、開度0.9mとすれば、

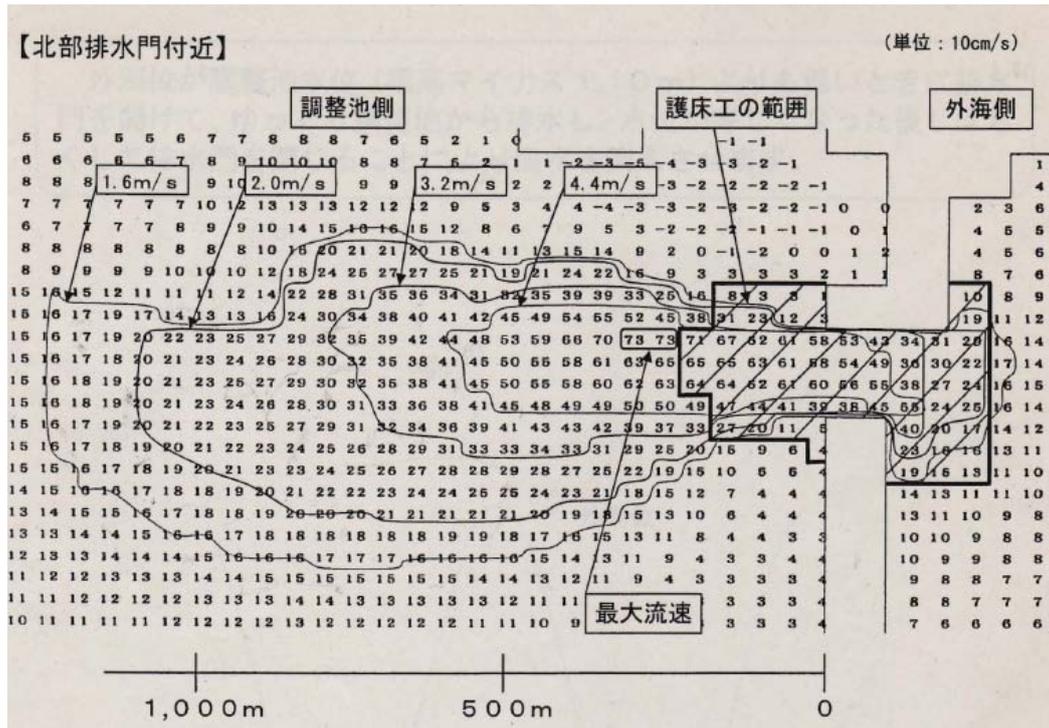
平均流速＝流量÷通水口断面積

$$= (282 \text{ 万 } m^3 \div 55 \text{ 分} \div 60) \div (250m \times 0.9m)$$

$$= 3.8m/s > 1.6m/s$$

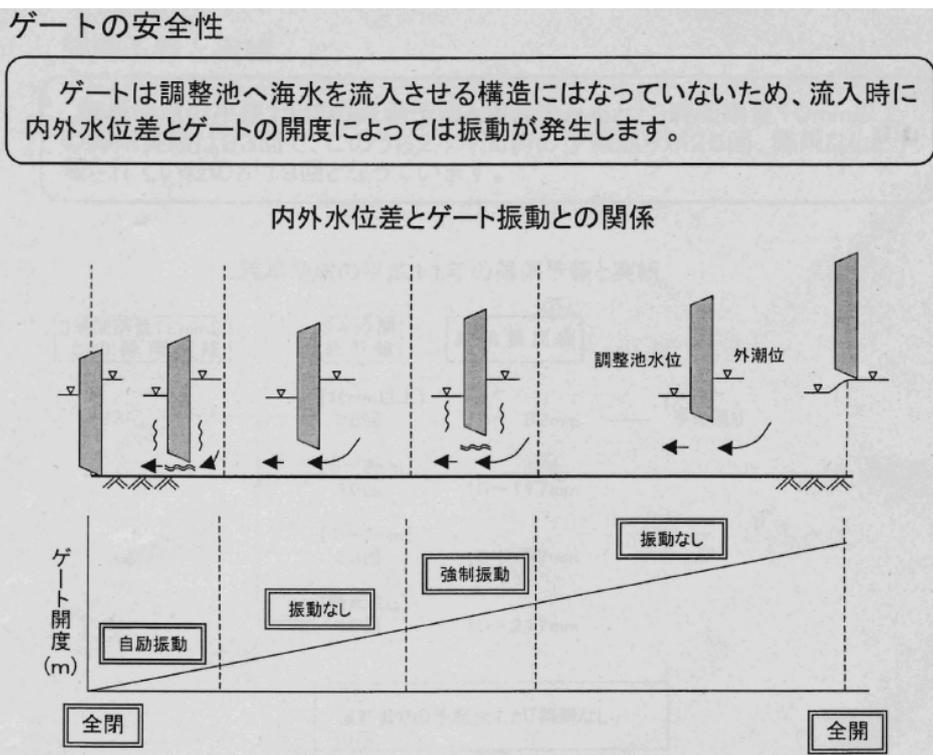
ノリ第三者委に農水省が配布した常時開門時（大潮時水門全開の流入シミュレーション）の流速分布図では、次図のように北部水門直下より護床工外側で最大流速を示している。3.8m/sが実際には3割ほど減速すると仮定しても2.7m/sにしかならないし、しかもこれらは平均値なので、どこから考えても護床工外側で最大流速値が1.6m/sを超えたのは確実だと思われる。農水省の合理的な説明を求めなければならない。

出典：ノリ委への農水省配布資料



資料2 ゲート振動を防ぎながらの開度設定は可能である

ノリ第三者委への農水省配布資料から (振動を生じない開度帯が全開以外にも存在する)



資料3 湛水被害はポンプ増強で軽減傾向

背後地排水機場整備状況（農水省は82年と99年の降雨比較で、湛水の軽減を97年の閉め切りの効果と説明するが、実は82～99年の間にも、99年以後もこれだけのポンプ整備が進んでいた事実に触れようとしない。）

●82年豪雨

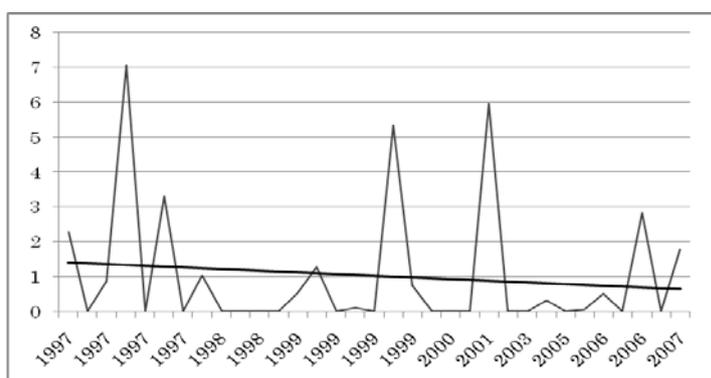
87年	梅崎排水機場 (7.5 m ³ /s) 完成	}	42.0 m ³ /s
89年	松崎排水機場 (12.5 m ³ /s) 完成		
92年	仲沖救急排水機場 (4.0 m ³ /s) 完成		
94年	長田排水機場 2か所 (11.0 m ³ /s) 完成		
95年	小豆崎排水機場 (4.0 m ³ /s) 完成		
96年	田井原排水機場 (3.0 m ³ /s) 完成		

▲97年 堤防締め切り

●99年豪雨

00年	諫早排水機場 (7.0 m ³ /s) 完成	}	53.6 m ³ /s
01年7月	中山雨水ポンプ場 (5.6 m ³ /s、22.6億円) 完成		
02年度	天狗鼻排水機場 (26 m ³ /s、23億円) 完成		
05年度	背後地排水路 4.5km 整備事業 (18億円) 完成		
08年3月	葭原排水機場 (15 m ³ /s) 完成		

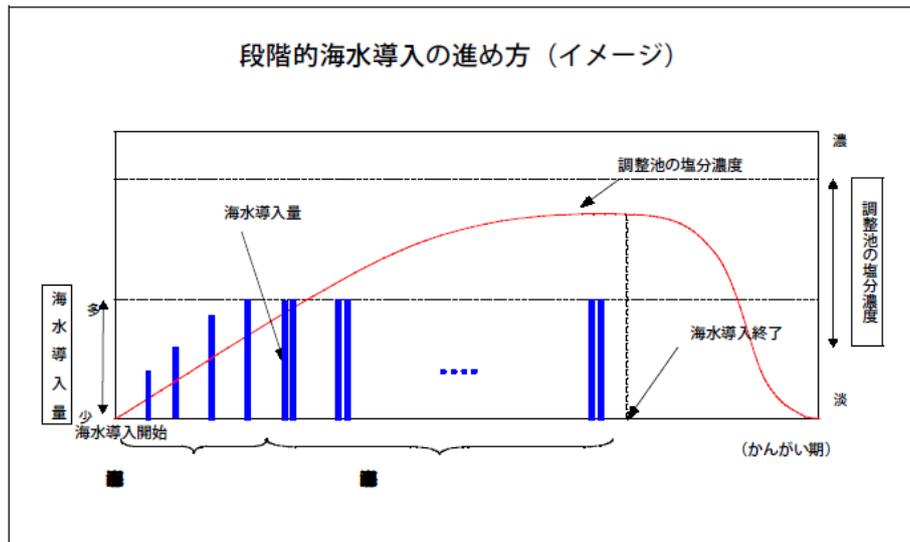
湛水面積／日最大雨量の比率（直線は近似線）



資料4 短期開門前に湾内漁業被害を予期して対策を打っていた

- ・「開門調査の実施について一皆様の疑問や懸念にお答えします」 p.6

- 開門は、下図及び次ページに示すように行います。



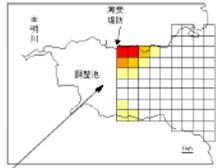
- ・「開門総合調査について」 p.6

諫早湾内の漁業に被害が生じないようにします

- 調整池の淡水魚の一部が死んで海域に流れ出す可能性がありますが、回収に努めます。
- 淡水や濁りが急激に諫早湾内に広がり、漁業に被害が出ることをないように、排水量を段階的に増加させます。

○ 開門時の濁りの増加量

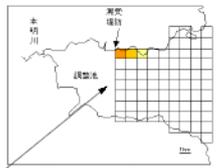
- ① 排水量を最初から多くした場合



排水量変化図（概念図）



*実際の排水量は、降雨状況によってこの図とは異なります。
- ② 排水量を段階的に増加させた場合



排水量変化図（概念図）



*実際の排水量は、降雨状況によってこの図とは異なります。

資料5 短期開門時の潮目

堤教授は「潮受け堤防の開門操作期間中に、諫早湾の調整池からの排水と、大雨による河川からの淡水の流入によって、約12億トンの淡水が有明海奥部海域に流入したと見込まれる。」「低塩分の表層水は、鉛直方向には水面下約6m付近に塩分躍層を、水平方向には島原半島沖約4km付近に潮目を発生させて、有明海奥部海域から諫早湾湾口、有明海西岸の島原半島側に偏在し、

さらに奥部海域外の島原半島南部（長崎県布津町）沖合にまで及んでいたことが確認された。」と、その規模の大きさを述べている。

堤ほか（日本海洋学会誌「海の研究」15巻2号、06年3月）

[諫早湾潮受け堤防開門操作中]

—April 26, 2002—



熊本県荒尾市上空から、有明海西側の対岸の雲仙普賢岳を望む位置で撮影



長崎県島原市上空から有明海の南側、正面に熊本県三角半島、右側に島原半島を望む位置で撮影

—May 19, 2002—



諫早湾湾口部から南に長崎県島原半島を望む位置で撮影

[諫早湾潮受け堤防開門終了後]

—June 7, 2002—



長崎県島原半島、島原市沖を望む位置で撮影

—July 31, 2002—



熊本県荒尾市沖上空から、有明海西側の対岸の雲仙普賢岳を望む位置で撮影（潮目はまったくみられなかった。）



熊本県荒尾市沖上空から有明海の南側、左側に熊本県三角半島、右側に長崎県島原半島を望む位置で撮影（潮目はまったくみられなかった。）